

初版で最終版になった～ヨーロッパ共通歴史教科書

2021年12月13日 竹本 修文

1. はじめに

11月24日付で投稿した、「1623年のアンボイナ虐殺事件」で引用した文献の、Law and Torture in the Dutch Empire の日本語訳、オランダ帝国の法律と拷問に、当初から疑問を持ちながら、ゴタゴタした。結論は、「ヨーロッパ共通歴史教科書でも、植民地を含んだ政治体制国家を植民地帝国という表現が一般化している」事を説明するのに当該教科書を引用した。ECはEUになり次々と拡大を続けたので何回も改版されていると期待し、とりあえず帝国問題に決着を付けようとして、投稿ではなくて追加資料として議論に参加した方々に配布したが、KPCの「1623年のアンボイナ虐殺事件」の投稿の後に、議論と共に追加資料のまま掲載されている事を最近になって気づき、慌てて追加資料に対する追加を書いた記事の投稿である。

議論を含めて記載すると議論に参加しなかった読者にも何か参考になったかな～？と編集者に感謝しています。

2. ヨーロッパ共通歴史教科書

既に紹介済みだが、再度掲載する。EC12か国時代にフランスの歴史家フレデリック・ドルーシェが旗振りをし、加盟12か国の歴史家が参加して初めてのヨーロッパ共通歴史教科書を作成し1992年にフランス語版を出版した。そして、1994年に日本語版の初版が出版され、英語版と共に購入した。掲載内容は古代ギリシア時代の神話から1990年までの範囲で、12か国で合意に至らなかった課題は将来への課題として記載しており、素晴らしいと感心した。図1. は日本語版の表紙、図2. は執筆、編集および日本語の翻訳者と監修者のリストである。



3. ヨーロッパ共通歴史教科書の中の Dutch Empire とオランダ植民地帝国 の表現

図3.英語版と 図4.日本語版を添付する

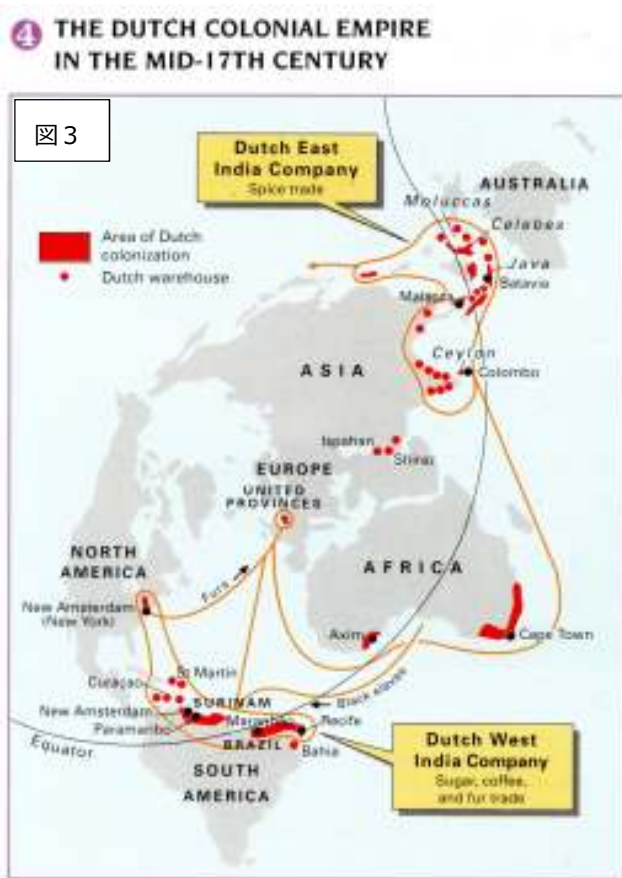


図3



図4

4. ヨーロッパ共通歴史教科書のその後

① 英語版は初版が絶版になっている。日本語版は東京書籍が1998年に第2版を出版して終了している。監修の木村尚三郎氏は既に他界されており、第3版は無いと思う。英語、日本語の両方とも中古本がamazonで販売されている。

② EC12 かの時代迄は、東西冷戦時代であり、この教科書はすべて西側の歴史家が執筆してきたが、その後は中立3国、続いて東側諸国も入って、バルカン半島のクロアチアでEU加盟国が最大の28か国になったが、イギリスが脱退 (BREXIT) して現在は27か国になり、新たに共通歴史教科書を作る雰囲気無い。

③ 最近のポーランドは、「EUから脱退する気はないが、EUのルールと各国の憲法のどちらが優先するか？」というEUの崩壊の原因にもなりかねない基本的な課題を明確にせよ、と迫っている。

第1次および第2次の世界大戦はいずれもヨーロッパから起きており、その反省からヨーロッパの経済統合から現在のEUまで発展したが、崩壊は防いでも新たにヨーロッパ共通歴史教科書の改訂は当分 (又は永遠に) 望めない。

今回投稿の表題は残念だが、初版で最終版になった～ヨーロッパ共通歴史教科書 としました。

筆者は、今後も大事に保管します、少なくとも古代から中世までは活用できるので…… 竹本 修文

第3次大戦になるかもしれない、① 中国と周辺およびアメリカ、② ロシア・ウクライナ、③ ベラルーシ・EU、気になりますね～？